

安倍暴走政治を止める

衆院小選挙区候補発表、決意表明

2016年12月25日(日) 第1831号
新いりがた社 新潟市中央区花園2-3-10 ☎025(247)6366
毎月4日曜日 定価150円 1966年7月22日 第三種郵便物認可



決意を述べる(右から)細井、伊藤、樋渡、五十嵐、西澤の各氏=5日、県庁

新潟県の日本共産党の衆院小選挙区候補が5日、県庁で記者会見して発表(1区を除く)され、樋渡土自夫県委員長と2区・細井良雄、3区・伊藤誠、4区・五十嵐健彦、5区・西澤博、6区・上野公悦(欠席)の各候補が決意を述べました。樋渡委員長は、新潟での参院選、知事選での勝利は、大義の旗があったこと、野党と市民の本気の共闘があったことが大きな要因だったと力説。総選挙ではさらに本格的な相互推薦、相互支援が必要で、野党統一候補の実現に全力を尽くすとともに、比例代表では県内で15万票獲得するために全力をあげると述べました。

各候補から「柏崎刈羽原発から14キロ離れた住んでおり、何となく、移動をストップし、安倍暴走を止めたい」と(細井候補)、農業者、TPP反対の住民の声を届けたい(伊藤候補)、学費問題、若者の問題に取り組む(西澤候補)との決意が語られました。



支持者の子どもから花束を贈られる森議員と米山知事

命とくらしを守る政治ともに

十日町市で森参院議員と米山知事を囲む会

参院選新潟選挙区で野党統一候補として勝利した森裕子議員と、県知事選で勝利した米山隆一知事を囲む会が11月23日、十日町市で開かれました。同市の「新潟に新しいリーダーを誕生させる会」が主催し、170人が参加しました。森議員は「県民の支持・応援が米山知事の自信につながっている。新潟の経験を生かして、野党共闘、生活第一、立憲主義回復で力を合わせていきたい」と強調しました。米山氏は、知事選で勝利できた要因として、第一に検証なくして原発再稼働はできないという大義の旗を明らかにできたこと、自分を知らない人にもこの旗のもとにたたかえたと強調。知事選の共同組織で考えの違いを認め、相手をリスパクト(尊敬)しあい、意見を交わし合いながら野党、市民が広く結集できたこと、そして森議員という素晴らしいコーディネーター役が存在したことが勝利につながったと力説しました。集会には、十日町市長、津南町長(代理)、各野党も参加しました。



当選を喜ぶ中沢氏(後列左から3人目)ら

1区	町田 明広51新
2区	細井 良雄67新
3区	伊藤 誠42新
4区	五十嵐 健彦37新
5区	西澤 博36新
6区	上野 公悦67新
上越市議3期目、党県委員、上越地区委員長	
1区	明広51新
2区	良雄67新
3期目、党中越地区委員	
3区	伊藤 誠42新
4区	五十嵐 健彦37新
5区	西澤 博36新
6区	上野 公悦67新
上越市議3期目、党県委員、上越地区委員長	

11月20日投票の新潟県南魚沼市議補選(定数3、立候補4人)は、日本共産党の中沢道夫氏(60)が新、党市委員会生活相談室長(63・49%)を得票率3位で当選しました。現有2議席から3議席に増やし、議案提出権を獲得しました。中沢氏は当選が決まり、事務所集まった支援者に「選挙で訴えた、県内一高い水道料、国保税の引き下げ、『市民の声をよく聞き、しっかり発言、きちんと報告』する議員になるよう頑張りたい」と決意を述べました。

中沢氏三選

南魚沼市議補選 2から3議席へ

安倍暴走政治を変えよう

市民連合が森議員としゃべる会

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める新潟市民連合は11日、参院選で野党統一候補として勝利した森裕子議員と「政治をしゃべる会」を開き、60人が参加しました。

水内基成共同代表が「政策協定で定期的話し合うことになっており、政治情勢を学び、市民が伝えたいことを伝え、双方で進めていきたい」と述べまし

た。

森議員は、安倍政権がPPP（環太平洋連携協定）承認案、年金カット法案、カジノ解禁法案などの悪法を相次いで強行可決した点など、国民の声を聞くとうとしない姿勢をきびしく批判しました。

森議員は、市民連合との協定で、当面無所属での活動を費やしてきしたが、無所属ではPPPなど国民の重大問題で質問時間が確保できないことから、自由党所属に変更したことを了承してもらったと述べました。知事選で勝利したこと、全国から期待の声が多く寄せられており、市民と野党の共闘を全国に発信し、立憲主義回復、政治を変えることが自分の責務だと強調しました。



市民と野党の共同を訴える森議員＝11日、新潟市

は、機能不全に陥っている安倍政権を変えるため、衆院選を見据え、野党統一候補擁立を各党に働きかけることを強調。今後、憲法問題での連続勉強会、政治への関心喚起のために選挙管理委員会への働きかけ、参加者層の拡大と地域とのネットワークづくりを提案しました。

子ども貧困対策を 給付型奨学金早期に

新潟県議 米山知事ただす

新潟県議会は13日、連合委員会を開き、日本共産党の渋谷明治県議は米山隆一知事に、深刻な子ども貧困対策や奨学金制度などについてただしました。

渋谷県議は、政府の統計で子どもの貧困率は16・3%で、6人に1人が貧困状態であり、特に「ひとり親」家庭の貧困率が54・6%にのぼっており、貧困の連鎖を解消することは待ったなしの課題だと指摘しました。

米山知事は「子どもの将来が生まれ育った環境に左右されることのないよう、将来、社会の担い手となるすべ

この子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現に向け、支援していくことは未来への責任と考え、しっかり取り組んでいく」と答えました。

渋谷県議は、県が11月に発表した「子育て世帯調査（子どもの貧困実態調査）」で、「経済的に短大・高専・専門学校まで受けさせられない」と回答した割合が約1割、また2割が大学の進学をあきらめていることが分かったと力説。県が検討している給付型奨学金の創設が急務であると強調しました。



質問する渋谷議員

米山知事は「可能な限り早期に実施したいが、今後明らかになる国の制度を踏まえ、国の制度を補完して、支援を必要とする子どもたちが、より適切に対象となるよう制度設計していく」と答えました。

市職員の長時間労働是正を

平新潟市議が追求

新潟市議会12月定例会で9日、日本共産党の平あや子議員は、新潟市職員の長時間労働の是正について一般質問しました。

平議員は、新潟市で2015年度に月100時間以上の残業をした職員が453人に及び、もっとも多く残業した職員は年間1803時間、1カ月あたり換算すると過労死ラインの80時間をはるかに超える150時間もの過酷きわまりない仕事をしていたことになると指摘しました。

労働基準法第33条3項では、公務員に時間外勤務をさせることができるのは「臨時の必要がある場合」に限られると指摘。篠田昭市長に、長時間労働や過労死を加速させる内容であるとの認識はあるか、同法案の撤回を国に求めるべきではないかとただしました。

市長は「国会での慎重な議論が必要」との答弁にとどまりました。



平議員は、「残業代ゼロ法案」の撤回を国に求めるよう追及しました。「残業代ゼロ」制度がいったん導入されれば、年収や職務要件は際限なく引き上げられると指摘。篠田昭市長に、長時間労働や過労死を加速させる内容であるとの認識はあるか、同法案の撤回を国に求めるべきではないかとただしました。

市長は「国会での慎重な議論が必要」との答弁にとどまりました。

亡国、地域破壊のTPP自公維が強行 県民共闘会議が抗議の緊急デモ行進



強行採決に抗議するデモ行進＝9日、新潟市

環太平洋連携協定（TPP）承認案・関連法案が参院本会議で、自民、公明、維新の党が強行採決しようとする中、TPP参加阻止新潟県民共闘会議は9日昼、新潟市で緊急のデモ行進を行い、雨の中50人が参加しました。

出発前の集会では、鶴巻純一県農民連会長が「TPPは知れば知るほど生活を破壊する内容だ。重要5項目のうち3割の品目で関税を撤廃し、牛肉・豚肉に限ると7割の品目で

撤廃される。これでは農家はもとより地域が破壊されてしまう。承認案が可決されれば、アメリカ力がTPPから離脱しても、日米2国間でさらに譲歩が迫られる。断固反対しなければならぬ。雨の中最後まで頑張ろう」と訴えました。

連帯して、日本共産党の西澤博典政策委員長は「世論調査でも国民の7割が慎重審議を求めているTPPは議論し尽くされていない。コメと農業、食の安全、

雇用を守るために、野党が結束して頑張り抜く」と訴えました。「TPPは強行すると唱和しました。

な」「安倍首相は国会決議を守れ」「地域を壊すTPP反対」などと

二度と戦争起こすな

憲法センター、母親連絡会が宣伝

憲法を守る新潟県共同センターと県母親連絡会は8日、新潟市で反戦街頭宣伝を行いました。50人が参加してプラカードや横幕を掲げ、召集令状「赤紙」を模したピラを配布しました。

佐藤一弥憲法センター代表が「12月8日は太平洋戦争が始まった日です。当時の惨禍を

忘れず、二度と戦争は起こしてはいけないと誓いあう日です。政府は戦争法に基づく『駆け付け警護』を付与して、自衛隊を南スーダンに派兵しており、自衛隊員が殺し、殺される危険が現実的に迫っています。参議院選挙や知事選で示された、市民と野党の共同で戦争法を廃止させよう」と訴えました。



プラカードをかかげる参加者＝8日、新潟市

母親連絡会の赤沢富美子会長は「赤紙1枚で愛する家族を残して戦場に送られたことを考えてほしい。二度と同じ思いをさせてはならない」と訴えました。

ピラを受け取った70代女性は「子ども心に戦争は怖いものだと記憶が残っている。戦争は二度と起こしてはいけない」と話しました。

ゆきとどいた教育を

県民の会が署名提出

国会と新潟県議会あてに請願署名運動に取り組んできた「ゆきとどいた教育をすすめる新潟県民の会」は1日、県議会議長あてに1万1497人の請願署名を提出しました。提出後、記者会見しました。

会見で寺崎洋子代表は、今回の県議会への署名では、県独自の給付制の奨学金制度創設を第一項目にあげてきたと紹介。この問題では、米山隆一知事も知事選の公約に掲げ、所信表明でも実現に前向きな姿勢を示したと強調しました。

寺崎代表は、県民連動で昨年度は中学校までの35人以下学級が実現したが、全国で不登校やいじめ自殺問題が後を絶たないことから、さらに教員を増やし、子どもたちに寄り添える態勢が必要だと力説しました。

県労連の山崎栄三氏は「新潟県の最低賃金は753円で、関東甲信越では最低だ。学校にもいけない子をなくすためにも、教育費の大増予算増を国に求めたい」と強調。県公立高教組の木村眞吾委員長は「奨学金の返済で、多い人で月12万円、700万円の返済を抱える人もいます。米山知事は教育に力を入れており、ぜひ県議会でも後押ししてほしい」と述べました。



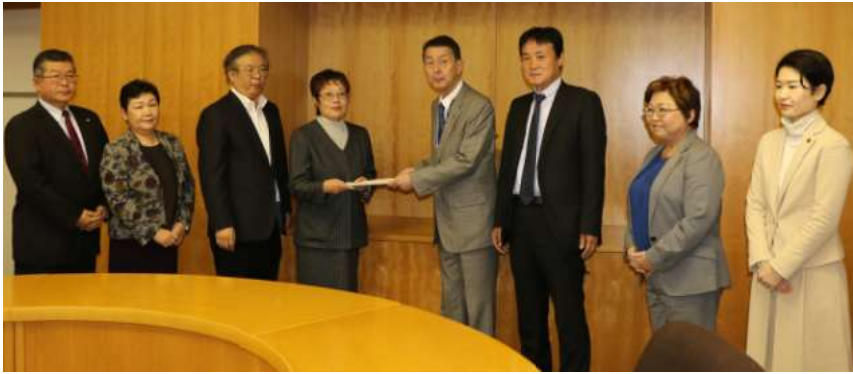
記者会見する会の人たち＝1日、県庁

大増予算増を国に求めたい」と強調。県公立高教組の木村眞吾委員長は「奨学金の返済で、多い人で月12万円、700万円の返済を抱える人もいます。米山知事は教育に力を入れており、ぜひ県議会でも後押ししてほしい」と述べました。

安心して住み続けられる市政に

新潟市議団が市長に予算要望

日本共産党新潟市議団と新潟地区委員会は5日、篠田昭市長に2017年度予算編成と市政運営に関する申し入れを行いました。冒頭、田中眞一地区委員長、渡辺有子市議団長が、安倍政権の「成長戦略」のもとで国民の暮らし・福祉切り捨て、大幅負担増が強い



篠田市長（中央）に要望書を渡す新潟市議団＝5日

充のため、共産党は県政与党として米山隆一知事に、停止されている交付金を、政令市・新潟市に復活するよう申し入れする予定であり、市からも力を入れてほしいと求めました。他の市議からも一國保の都道府県単位化後の同一保険料・同一サービスに反対し、一般

会計繰り入れ継続を」（野本孝子市議）、「救急医療を担う病院群輪番制事業での支援強化を」（平あや子市議）、「学校給食は無償にし、値上げはすべきでない」（飯塚孝子市議）、「TPPで不安を持っていく農家が持続可能な農業ができるように」（倉茂政樹市議）などと訴えました。

実効性ある避難計画に

長岡市議団が市長に予算要望



磯田市長（中央）に要望書を渡す長岡市議団＝11月30日

産党中越地区委員と長岡市議団は11月30日、磯田達伸市長に200項目を超える来年度予算要望をいたしました。齊藤実地区委員が、5つの基本姿勢と、重点要求として「原発再稼働」と

篠田市長は、「国の国保への大幅助成削減は、土台を揺るがしかねない」「病院群輪番制事業は、病院と意見交換しながら前進できるようにしたい」「新しい県政のもと、子ども医療費助成など県民によくやることは、県政与党の共産党とも一緒に頑張れるところは頑張ってください」と答えました。

「子ども医療費助成制度」を取り上げ要望しました。再稼働問題では、この問題に対する市長の姿勢を評価しつつ、市の避難計画を実効性のあるものに見直すとともに、計画作成に国が責任を持つことを求めることを要望しました。

磯田市長は「再稼働しなくとも避難計画は必要である。国の関与は必要であり、県に広域避難の方針を示すことを要望したい」と答えました。子ども医療費の問題では、高校卒業までの拡充と、県が今年度実施した交付金制度を元の制度に戻すように求めることを要望しました。市長は、県の実質的支援が厚くなるよう要望したいと答えました。笠井則雄市議団長は、党市議団が支所訪問を実施したことを紹介しながら、どの支所も「地域の宝磨き上げ事業」など地域活性化に奮闘しており、市として後押しすることを要望。市長は、支所の意見をよく聞いて政策を進めたいと答えました。

社会医療法人 新潟勤労者医療協会

理事長・高橋常彦	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250(24)5170
下越病院	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250-22-4711
舟江診療所	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
介護老人保健施設入舟	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
沼垂診療所	〒950-0075	新潟市中央区沼垂東6-4-12	Tel.025-244-0116
坂井輪診療所	〒950-2054	新潟市西区寺尾東3-8-35	Tel.025-269-6630
おぎの里	〒956-0012	新潟市秋葉区荻野町3-8	Tel.0250-25-3071
ときわ診療所	〒950-0036	新潟市東区空港西1-15-17	Tel.025-274-2714
かえつクリニック	〒956-0836	新潟市秋葉区田家2-1-30	Tel.0250-22-5888
かえつ歯科	〒956-0831	新潟市秋葉区中沢町1-25	Tel.0250-25-5510

鳥インフルに負けないで!

（瓢湖（阿賀野市）鴨類や白鳥が飛来すると、瓢湖は俄然賑やかになる。（高橋シズ）

地方政治と住民運動の専門誌

議会と自治体

月刊